

SCHOOL DATA

〒276-0027 八千代市村上1113-1
 TEL.047-482-0931 FAX.047-482-1463
 ■児童数 / 784人 ■教職員数 / 35人 ■周辺環境 / 住宅地

平成22年
5月1日現在



子どもによって生き物を別の池へ移動する作業



水草を取り除きヤゴを取る作業

ビオトープの概要

- 場所 / 学校敷地内
- 面積 / 400㎡
- 設置者 / 学校
- 設置した年 / 2010年
- 主な管理者 / 教職員・児童・ビオトープ実行委員会

【生息している動物】

カマキリ、コオロギ、バッタ、モンシロチョウ、キアゲハ、アオスジアゲハ、ギンヤンマイトトンボ、ミツバチ、カナヘビ、ドジョウ、クロメダカ

【生育している植物】

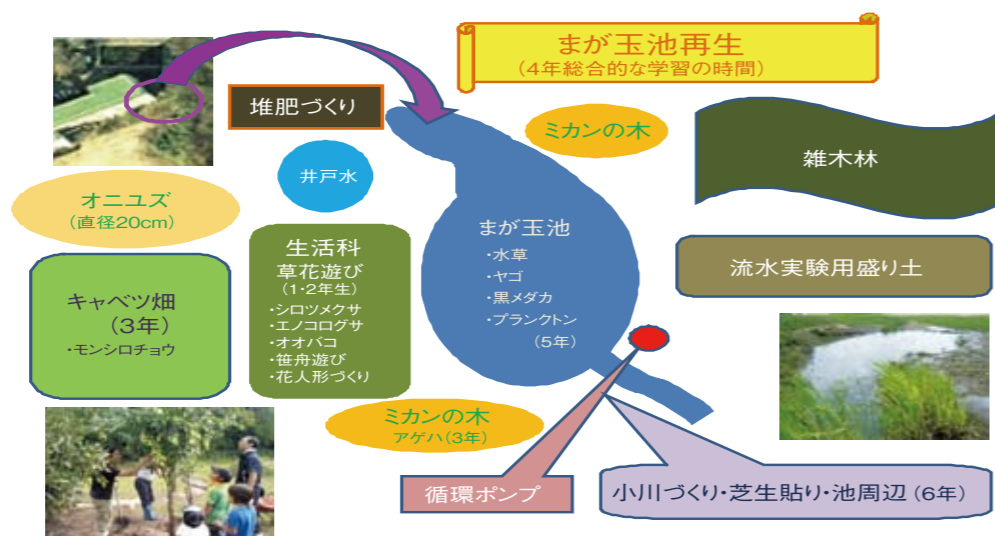
サクラ、ギョイコウ、クヌギ、ミカン、バラ、ヨモギ、カントウタンポポ、アジサイ、オニユズ、ミョウガ、サクラソウ、シロツメクサ、ツククサ、シュロ、カラスノエンドウ

<コンセプト>

村上地区は太古より悠久の歴史に彩られ、古くから人々が自然と調和しながら大地とともに生きてきた証が数多く発掘されている。本校の校歌に謳われている勾玉もそうした出土品のひとつであるが、その勾玉を模した「まが玉池」が保護者の協力によりつくられている。そこは子どもたちが水辺の生物を観察する場であり、周辺で遊び憩う場でもある。創立35周年を記念して、子どもたち中心となり、保護者の皆さんや地域の方々の支援を受けながら、「まが玉池」が一層自然豊かな水辺となるよう改修することとなった。同時にビオトープづくりを通じて、子どもたちが水辺の環境に親しみや理解を深め、地域の方々と触れ合い、地域の一員として自然を愛する精神を培う第一歩となることを願っている。

【今後生息・生育させたい生物】

ホタル、カワニナ、ホタルの環境に合わせた植物
 クロアゲハ、ジュズダマ



池を広げる作業



土を運んで池に敷きつめる作業



芝生を切り取り川岸に貼る作業

ビオトープの活用方法

■児童

- ・低学年は池の水で笹船を浮かべたり、周りの草花で遊んだりヤゴの様子を観察したりしている。
- ・中学年は、総合的な学習の時間の中で「まが玉池を生物の棲みやすい池にしよう」という目的で池づくりをしている。
- ・高学年は、池に棲むメダカやプランクトン、日光で増える水草や発生する酸素などを、理科の学習として役立てている。さらに踏み込んだ学習として「食物連鎖」（新学習指導要領に追加された）などについても学んでいきたいと考えている。

■地域住民

- ・長期休業を利用して保護者、近隣住民向けの観察会を行う。
- ・近隣小学校の理科の授業、総合的な学習での利用を促進する。
- ・学校便りや学校のホームページを通して、ビオトープの様子を保護者に伝え、環境保全に対する啓発活動を行う。

ビオトープの効果

■児童への効果

- ・豊かな自然の中でたくさんの生き物や不思議との出会いを通して、健康で心豊かな人間を育成する。
- ・生物や環境についての授業でビオトープを活用することで、動植物とその暮らしについての理解が深まる。
- ・ビオトープづくりに関わったことで、自分の学校に愛着を持ち、環境保全についての意識が高まる。

■教職員への効果

- ・ビオトープづくりを通して、自然と人間の共存関係や生物多様性についての意識が高まり、生きた教材として効果的に子どもに還元していける。

■保護者・地域住民への効果

- ・ビオトープづくりを学校、保護者、地域住民が一緒に行うことにより、お互いに理解が深まり、地域コミュニティが促進される。
- ・保護者、近隣住民向けの情報発信をしていくことで、地域の人々が自然に親しむ機会が増えるとともに、学校への理解が深まる。

保護者・地域との連携

■保護者・地域住民・ひがしっ子の会（保護者有志）・まが玉会（地域有志）

- ・池周辺の木の伐採や除草作業を行った。
- ・池を掘ったり、防水シートを固定する溝を掘ったりした。
- ・大学関係者や地域住民、企業からも、ビオトープづくりの助言をもらっている。

整備・活用・管理等の課題

平成21年度までは、池が浅く水も循環させていなかったため、植物が繁茂しすぎていた。そのため今回の作業で、生物を他の池に一時避難させ、池を深くし、水を循環させた。今までの生態系のバランスとは異なるため、それを考慮しながら元々池に生息していた生物群が再び生息できるようにしていく。また、現在、池の西側には太陽光を遮るものがないため、植物が繁茂しすぎないように日影を作っていく。

今後の展望

「学校全体がビオトープ」という考え方で、チョウとミカンの木、トンボと池など既にある校内の自然環境のつながりにも気づかせていく。また、校内に流れる小川にホタルを放流していくことを考えている。

整備担当者（教員、児童、保護者等）から

子どもたちの手で、池に棲む生物を別の池に移し、池を掘り、土を敷きつめ、池を再生させている。もちろん全てを子どもたちだけでできるわけではない。「子どもたちの手で」ということを十分に理解していただいているPTAやひがしっ子の会、まが玉会の方々が、子どもたちだけではできない部分の作業に協力していただいている。自分たちでやり遂げる満足感だけでなく、関わってくれた人への感謝にも気づいていけるようにしていくことが、今回のビオトープづくりの大切な目的である。